



『第167回北海道歯科技工学術研修会』のご案内

2024年 2月 17日(土) 13:00~17:40

『歯周組織に調和した補綴装置を目指して』

The northern lights DC studio 代表取締役社長 辻 秀憲



条件の異なる様々な口腔内環境に調和した補綴装置を製作する為には、色調の調和はもとより歯周組織に対しても様々な形態的配慮が必要になる。特にインプラント治療においては設計の自由度が大きいことから、プロビジョナルレストレーションのステージで形態を煮詰め、歯周組織に対して確実な整合性を得る事が重要になる。また複雑な症例に対応したクラウン、ボンティック形態を与えるには、治療初期の段階から歯科医師と共に緻密なコミュニケーションが必要不可欠となる。本講演では、様々な口腔内環境に調和した補綴装置を製作するにあたり、チェアサイドとの連携や補綴装置の色調的マネージメント、部位別に求められる形態付与について、臨床例などを元にお話したい。

『CAD/CAMで製作する高精度なデンチャーメタルフレーム』

エステティック・アート・デザイン 木村 義明



アナログからデジタル技工に急速に移り変わっていく昨今、手技が大切なものも多々ある現状を踏まえつつ、デジタルを上手く取り入れて作業効率化を図り歯科技工を魅力的な職業に変えていきたいものである。私のラボでは9年ほど前にCAD/CAMシステムを導入し、当時まだ誰も手掛けていないデンチャーメタルフレームと、効率化を図りたいロングスパンブリッジからデジタル化に取り組んでいった。今回はデンチャーフレームに的を絞り、デジタルアナログの世界をWAXディスク、3Dプリンター樹脂、WAXディスク&光重合パターンレジンと3パターンの使い分けでご紹介したい。

最近ではWAXディスク、3Dプリンター樹脂の種類も豊富になってきているが、選択とコントロールが難しくデジタル化を遅らせている一因となっている。そこでデンチャーメタルフレームに合う機器や材料選びから使用方法までを順を追って説明したい。

今現在は全てのデンチャーメタルフレームをデジタル化しているので、従来法と比べ作業時間が約40%程度短縮している。5年前には全てWAXディスクを切削していたが、今はほとんどのデンチャーフレームを3Dプリンター樹脂に切り替えている。3Dプリンター樹脂の使用利点としては何と云っても時間の速さにある。従来のワックスディスク削りと比べると1/5~1/10と格段に速いのである。

デジタル化によって確実に作業時間が短くなり、人手不足や長時間労働から解放される一つの手段として、十分に取り入れることができる。もう一つ重要なのが、同じ時間労働しても疲労度が軽減されることである。歯科技工は細かい作業の連続のため、他業種と比較しても離職者が多い現状であるが、デジタル化により魅力的な仕事に変えられるのではないだろうか？

デンチャーメタルフレームのデジタル化は、まだまだと考える方が多いと思いますが、今回を機に再チャレンジしてみてもどうでしょうか？3Dプリント樹脂では難しいケースはWAXディスクやWAXディスク&光重合パターンレジンを選択すると、比較的簡単に精度を上げることもできる。今回の講演が歯科技工業界の発展の一躍になればと思います。

会場

旭川市大雪クリスタルホール
旭川市神楽3条7丁目1-45
TEL0166-69-2000

定員

◆会場 50名

参加資格

(受講料)

歯科技工士会会員	(1,000円)
歯科技工士未入会員	(10,000円)
歯科医師会会員	(無料)
歯科衛生士会会員	(無料)
歯科技工士学生	(無料)

注意事項は裏面をご覧ください。📄

お申込み、受付方法

来場時に受付で受講登録を行なって下さい。受講料は学術大会当日にお支払いください。

- (1) 会員カードを所持している場合はご提示ください。
- (2) 会員カードを所持していない場合は、受講者名簿に必要事項を記入して下さい。
- (3) 当日は15：30をもって受付を終了致します。
(15：30分以降は、生涯研修単位取得の対象外となります)

公益社団法人北海道歯科技工士会
電話番号 : 011-717-7155
FAX : 011-717-6954
mail : dougi@dougi.or.jp